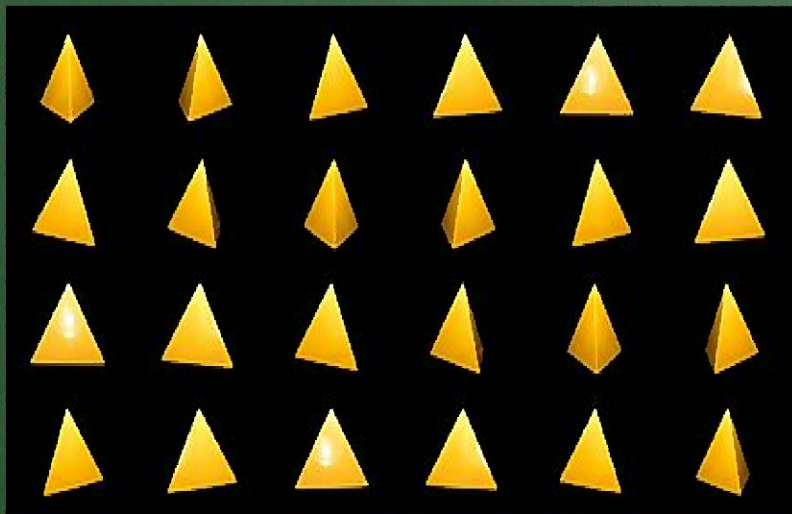


カルメル

靈性センターニュース



2023年9月

400号



## 目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	28
名古屋	32
諸所の企画案内	33
通信深読お申込みのご案内	38
郵送お申込みのご案内	39







# 心の泉



宇治カルメル会修道院



### 第三卷

#### 第五十六章 自分を捨て、十字架を担ってキリストに従いなさい

##### 5 子

《主イエスよ、あなたが言われ、約束されたとおりになり、私をそれにあずかせてください。私はあなたから十字架を受けました。確かにみ手から受けました。そしてご命令の通りに、十字架を最後まで担うつもりです。よい修道者の生活は十字架ですが、それは天国への道であります。私たちは、事を始めたのですから、退くことも、道を引き返すこともゆるされません。

だから兄弟たちよ、勇気を出して共に進もう。イエスは私たちと共におられるのだ。私たちはイエスのために、この十字架を担った。だからイエスと共に無い続けよう。案内者であり先導者であるお方は、同時に助け手でもある。ごらんください、王が先頭に立って進み、「私たちのために戦ってください」(ネヘミア4・14)。いさましくキリストに従おう、誰も恐れてはならない。戦って、勇敢に死ぬ覚悟をしよう。そして十字架を捨てて、光栄を汚すことのないようにしよう(マカバイ9・10参照。)

#### 第五十七章 過ちを犯しても、落胆してはならない

##### 1 主

《子よ、不幸な時の忍耐と謙遜とは、幸運な時の慰めと信心よりも、私を喜ばせる。あなたについて言われたささいなこと、されたことについて、どうしても悲しむのか？それ以上のことで侮辱されたとしても、あなたはそのため心騒がせてはならない。そういうことを見過ごしなさい。それは、初めてのことで珍しいことでもなく、あなたが長生きするなら、これが最後のことというわけでもない。

どんな場合にでも、自分の望みに反することが起こらないかぎり、あなたは自分で弱くないつもりになっている。そういう時には、他人に有益な助言をし、力づける言葉も知っている。ところが突然、戸口に患難が訪れると、あなたの助言や力強さは消え失せる。小さな患難の時にもよく経験する自分の弱さを考えなさい。つまり、そういうことが起こるのも、あなたの霊的な救いのためである。

神さまがわたしの望みを聞き入れてくださるなら、  
わたしは天国にしながら  
世の終わりまで地上で過ごすでしょう。  
そうです、わたしは地上で善を行いながら、  
天国を過ごしましょう。



～テレーズ～ \*最後の言葉 7月17日

- 8日 聖マリアの誕生(聖テレーズ修道誓願宣立 1890年)
- 14日 十字架称賛
- 15日 悲しみの聖母
- 29日 聖ミカエル、聖ガブリエル、聖ラファエル大天使

あなたは“平和の審判官”であってはなりません。  
その権利をもっておられるのは神さまだけです。  
あなたの使命は、”平和の天使”であることです！

～テレーズ～ \*教訓 1



30日 テレーズの命日 (祝日 10月1日)

「わたしは死ぬのではありません。生命に入ります」

～テレーズ～ 最後の言葉 6月9日

命の夕べに、わたしは、空の手で主のみ前に出ることでしょう。  
わたしは、自分の業を数えていただきたいとはお願いしません。  
主がご覧になれば、わたしたちのすべての正義さえ、なおけがれていますから。  
それでわたしは主ご自身の正義を身にまとい、

その慈しみによって主ご自身を自分のものになりたいと思います。

～テレーズ～ 主の慈しみに身をささげる祈り

テレーズ生誕150周年中のテレーズの命日、そして10月1日聖テレーズの祝日に向けて、  
テレーズが「わたしの宝と言う“神の慈しみ愛”」への果てしない希望をわたしたちも  
深める日々でありますように、

伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 創造主への賛美（67）

くのり  
九里 彰

長々と「創造主への賛美」について、つれづれなるままに思い浮かぶことを述べてきた。要約すれば、この賛美を妨げているものは、他ならぬ賛美している（と思っている）、あるいは賛美しようとしている自分（人間）自身だということになる。

それはまた、指摘してきたように、「信仰のまなざし」が求められているということであり、私たちキリスト者が本当に信仰の世界に入り、「信仰の薄い人」から「信仰の篤い人」となるということでもあった。

というのも、いまだに私たちの心の中には神に代わって自分を世界の主にし、人々に自分を賛美させようとするエゴが働いているからである。自分を偉い者とし、自分を誇ろうとする自己中心的な思いが蠢いている限り、他者の優越を嫉妬し、他者の劣等を蔑視する傾きが残存する。これが人を病気にし、社会的犯罪を引き起こし、やがて争い、戦争が生じる。原罪の残滓（無明のなせるわざ）と言っていいのではなからうか。

しかし、イエスはたびたび弟子に向かってこう諭された。

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」。

そして、ご自身へりくだり、人に仕えていく道、すなわち、自分を捨て、自分に死んでいく「十字架の道」を歩まれたのである。

カルメルの聖人聖女はみな、この道をひたすら歩み、その体験を言葉化した。最後の方にすこしだけ触れたりリジューの聖テレジアもその道を「小さい道」として表現したのである。

けだし、自分を捨て、自分にこだわらずに生き、存在している被造物は、反省的自己意識のない動物や植物ではないだろうか。

奥村一郎神父が中川宋渕老師を訪れた時のこと、同行の信者が「禅寺などでは、今も相変わらず、『ナムカラタンノ、トラヤーヤ』とやっておられるのですか」と質問した。老師は問い返された。「蟬の声が聞こえるかな……？」。「寺を囲む森に鳴く、耳を聳せんばかりの蟬しぐれに、我々もその時はっと気づかされた。『あれじゃ。あの蟬の声じゃ。わあっと力いっぱい鳴いとる。いのちのありったけ叫んどる。あれが祈りじゃ。あんたは蟬のことばがわかるか。ことばじゃない。いのちの叫びじゃ。』ナムカラタンノ、トラヤーヤ”、それでいいんじゃない。いのちの限り唱える。まことにありがたい。ナムカラタンノ、トラヤーヤ」。

（「創造主への賛美」完）



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (182)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 十字架と栄光 (3)

聖フランシスコに関しては、彼の伝記、つまり聖ボナベントゥーラがそのことを物語っています。それによれば、彼は、殉教に至るようと、モロッコやシリア行きの旅を企てたということです。

どちらも（訳注：ヨハネもフランシスコも）殉教者とはなりませんでしたが、二人とも何にもまして殉教への召し出しを感じていました。これは、すべてのキリスト者の召命でもあります。神が私たちがそこへ、すなわち殉教へと呼ばれたなら、すぐにそれに応える勇気を、すべての人は持たなければなりません。聖トマスは、「(殉教の) 決意を準備することによって」と言っています。

十字架のヨハネの殉教への望みについて証言した人々や他の多くの証人たちは、言及した質問 17 に答えながら、あるいは列福裁判の質問 10 に答えながら、キリストのために労苦することを彼が愛したことについて、またいかに彼がすべての人に労苦を耐え忍ぶように励ましたかについて、ふんだんに確証しています。それというのも、どんな人であろうと、主に労苦を捧げることによって喜びがもたらされるからです。また労苦を捧げている者がだれかは決して分からないにせよ、主は殉教の恵みを彼には与えなかったので、多くの労苦や十字架を彼は望んだということです。

ヨハネ修士は、彼の大きな労苦を「小さな労苦」(trabajuelos) と呼ぶのを常とし、「この世において主のために耐え忍ぶすべてのことは、とても小さな、小さな労苦だ」と言っていました。縮小辞の”trabajuelos”に、さらに「とても小さな」という言葉を付け加えました。

(P. 九里)

## 年間 第22主日

(マタイ16:21-27)

本日の主日の福音は、イエス様はメシアであり神の御子であるとの信仰をペトロが述べた先週の福音の続きです。ペトロはイエスからその素晴らしい考えとそのような神的啓示を受けた恵みを誉められました。しかし、イエスは弟子たちがメシアに対してまだユダヤ的考えにあるとよくわかっていました。そこでイエスは、メシアの本当の意味と、使徒職の本当の意味を明らかにされました。

イエスは、当時尊敬されていたグループである「長老たち、祭司長たち、律法学者たち」の手にかかって死ぬことを明らかにされました。この三つのグループはユダヤ人の最高官院であるサンヘドリンを構成していました。イエスの口から聞くことは弟子たちに直接の反応をもたらしました。イエスをメシアであると告白したペトロは、そのイエスが「殺される」と聞いていちばん失望しました。彼は明らかにイエスが「三日目に復活される」という重要な点を理解していなかったのです。ペトロはすぐにイエスをわきへ連れていき、いさめました。これはたしかに友情の気持ちからのものでした。ペトロはイエスを助ける責任を感じたのです。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあつてはなりません。」しかし、イエスはただちにペトロを通して話すサタンの声に気づき、サタンにペトロから引き下がるように命じました。十字架は神のみ旨であり、イエスのためだけではなく、イエスに喜んで従う人たちのためであるとイエスは言われました。「わたしについてきたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい。」

私たちはしばしば神のみ言葉は生きていて活動し、両刃の剣のようだと思っています。教会の歴史の中で、全生涯がたった一つの言葉で転換した聖人のことを読みます。このような言葉の一つが、本日の福音にあてはまります。「人が全世界を得ても、自分自身の魂を失うなら、どんな利益があるのでしょうか？」この言葉によって、イグナチオ・ロヨラの心に聖霊が触れ、彼の生活を大転換させ、彼は生涯を完全に神に委ねました。本日の福音でイエスは、このような献身を望まれています。十字架に対してペトロは「No」と言いますが、イエスは「Yes」と言います。死と復活は同じ一枚の硬貨の裏面と表面であって、分けることはできません。大きな十字架はめったに来ません。日々の十字架は、必ずしも小さくありません。私たちは、私たちの主イエス・キリストと共に自分の十字架を担っていきましょう。

(Sr. Paulina)

## 年間 第23主日 (A)

(マタイ 18:15-20)

御父なる神様は、私たち人間を、独りではなく、誰かと共に歩むことで成長できるようにお創りになったようです。神様は、「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」(創 2:18)とおっしゃられ、私たち人間の共同体制に信頼を置いておられます。

私たち人間は、他者の目に晒される時、ある時は緊張し、ある時は安心します。緊張が生じる時にも、怒られるのではないかと、その人と共にいることは居心地が悪いとか、萎縮してしまうとかなど、悪い意味での緊張もあれば、この人と共にいることで良い刺激を受け、自分も頑張りたい、正しく生きたいと思わせてくれるような良い意味での緊張もあります。このような、緊張をもたらしたり、あるいは安心をもたらしたりする他者の目に晒されること、他者がある意味で強制的に私の人生に入って来ることによって他者と関わらせられることは、私に、他者との関わりを構築するための自問自答と選択を生じさせますが、この自問自答と選択もある別の目によって刺激を与えられ、ある意味で私の自問自答と選択を方向付けています。

今日の福音は私たちに、「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる」(マタイ 18:15)と勧告しています。これは、私たちが生きていく中で何度となく直面させられる状況です。このように福音が勧めるような、他者に忠告しなければならない状況に置かれた時、私たちは通常悩みます。親しい間柄ならば、気を遣いながらもお互いがより良い方へ進むために、忠告することは出来ることが多いでしょう。しかし、信頼を置けない人の場合や、こちらの立場が弱い状況に置かれている時などは、このように福音が勧めるような、より良い方向に進むために意見を述べ、さらには忠告することは非常に難しくなり、多くの場合、忠告せずに、悪い方向に進んでいるかもしれないと分かっているながらも目をつむって流してしまうことが多いのではないのでしょうか。

しかし、このような、私の内面で私が独りで行っていると思えるような自問自答と選択も、人生の出会いの中で出会わされて来た多くの出会いによって培われている別の目によって導かれ、自身の自問自答と選択の在り方が進展させられるでしょう。その進展が、成長か後退かは、多くの出会いを通してその目がどのように自身の中で形成されているかによるでしょう。

それでも神様は、人が本性的に持っている他者と共に生きる共同体性にどこまでも信頼しておられます。それは、人が他者の目と共に生きることは、色々な変遷があったとしても、最終的に善へと導かれることを、神様ご自身が信頼しておられ、また、神様ご自身がそのように私たちを導いておられるということなのでしょう。

P. 志村



## 年間 第24主日 (A)

(マタイ 18 : 21 - 35)

「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。  
七回までですか」

マタイによる福音書では、ペトロからの問いに対し、イエスは「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」と答え、キリスト者の人生において赦すという徳が非常に大事だと強調しています。

赦しの実践はとても難しいものです。どうすれば自分が傷つけられたことを赦してすぐに忘れられるでしょうか？あなたの利益を望まない人をどうして赦せますか？しかし私たちは他者を赦すのを決して拒んではいけないのです。「赦すこと」とは、キリスト者全員にとって必要不可欠であり、イエスの弟子になるための必要条件の一つです。もし「赦さない権利」を持つ人がいるならば、それは不当な裁判によって十字架に付けられたイエスです。この時、イエスが発した言葉を私たちは知っています。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」。イエスこそ赦しの最大の模範です。イエスは、私たちの罪を赦し、苦しみを受け、十字架上で息を引き取りました。私たちがイエスと似た者となって忠実な弟子となるためには、イエスのように赦さなければなりません。

赦しこそ、神ご自身の本質です。神の別名は「いつくしみ」です。神の愛はすべてを包みこみ、私たちへの祝福と愛といつくしみを通して絶え間なく注がれます。赦しは平和をもたらし、この平和は私たちから神への愛によって成長し、隣人への愛によって表されます。私たちは、赦しによって、私たちの罪を絶えず赦しながら可愛い子どもとして私たちを引き寄せてくださる神に近づくことができます。「主の祈り」でも、私たちは「わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします」と祈ります。隣人への愛によって神をもっと愛しながら成長するべく、キリスト者としての生活の中で赦す徳を磨くことができますように。そして七回どころか七の七十倍までも兄弟姉妹を赦せ、というイエスの呼びかけを忘れないようにしましょう。

*(Sr. Paulina)*

## 年間 第25主日

(マタイ 20 : 1-16)

今日のみことばですが、イエスは弟子たちに「天の国のたとえ」として、「ぶどう園の労働者のたとえ」を語られました。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うため出かけて行ったところから、このたとえ話は始まります。

初めに主人は、夜明けに出かけて行って、1日に1デナリオンを支払う約束をして、労働者をぶどう園に送りました。それだけでなく主人は再び9時頃に広場に出向きます。すると何もしないで立っている人々がいたので、ふさわしい賃金を払うと言ってぶどう園に送り、そして次に9時、更に12時、そして午後3時、最後に午後5時…と幾度も何もしないで広場に立っている人に、ぶどう園で働く様に話し、彼らはぶどう園に行きました。そして1日が終わり、賃金を払う段になって、主人は監督に労働者を呼んで、最後にぶどう園に来た人から始めて、順に最初に来た人に払う様にと指示をしました。

最後にぶどう園に来た人に1デナリオン、その前に来た人にも1デナリオン、そして更にその前に来た人にも、そのように一番最初に来た人にも同じように1デナリオンを支払いました。最初に来た人は、自分をもっと貰えると思って主人に不平を述べますが、主人は最初に来た人に、1デナリオンの約束を話し、何も不正なことはしていないこと、最後のものにもあなたと同じように支払ってやりたいのだと、心のうちを語りました。

神の「みこころ」は、この様な愛に満ちた心です。最初のものにも、最後のものにも、同様に報いようとして下さる慈しみ深いお方なのです。私があなたがたを愛したように、あなたがたも愛し合いなさいと、イエスは福音書の別の箇所です。弟子たちに仰いますが、私たちはどの様に「今」を生活しているのでしょうか。

神の慈しみに信頼しながら、私たちも「慈しみ深い者」…となってゆけますように。

愛に満ちたものとなってゆけますように。新たな1週間、また1日の始まりにあたり、神の恵みと祝福がいつも豊かになりますように。賛美と感謝のうちに。

(Fr. 古川利雅)

# いのちの言葉 9月

絶えることなくあなたをたたえ世々限りなく御名を賛美します。 1

(詩編 145・2)

私たちの日々の旅路の助けとなるように選ばれた今月のみ言葉は祈りです。詩篇 145 篇から取られた一節です。詩篇には、イスラエルの民がその歴史を通して体験したさまざまな出来事と彼らが個人的に、又、共同体として味わった宗教的な体験が祈りで表現されています。これらは、嘆き、嘆願、感謝、賛美として主のみもとに立ち昇っていく祈りです。この呼吸（祈り）のうちに、人は、自らの人生や生ける神との関係をさまざまな感情とその姿勢で言い表すのです。

詩篇 145 篇の根底にあるテーマは神の主権です。詩篇の作者は自身の体験に基づいて神の偉大さをほめたたえています。「大いなる主、限りなく賛美される主」(同3節) 神の善とその愛の普遍性をたたえ「主はすべてのものに恵みを与え造られたすべてのものを憐れんでくださる」(同9節) 又その忠実さについて「主はそのすべての言葉に忠実である」(13節b) と。さらに「すべて肉なるものは聖なる名をほめたたえる、代々とこしえに」(21節・フランススコ会訳) と、すべての生きとし生けるものによる宇宙的な賛歌にまで及びます。

絶えることなくあなたをたたえ世々限りなく御名を賛美します。

とはいえ現代社会にあって、人は、時にはまるで自分が放置されているかのような孤独を感じることがあります。日々の出来事は、あたかも偶然の産物のように、又は何の意味ももたず目的もないことの連鎖に思えたりします。

次の詩篇は、そんな思いに対して確固たる希望を告げてくれます。「天地の創造主である神は、ご自分の民との契約を忠実に守ってくださる方、虐げられている人のために裁きを行い、飢えている人にパンを与え、捕われ人を解き放ち、見えない人の目を開き、うずくまっている人を起こされる方。主は正しい人を愛し、寄留の民を守り、みなし児とやもめを支えてくださる方なのです。」 2

絶えることなくあなたをたたえ世々限りなく御名を賛美します。

今月のみ言葉は、神の愛と憐れみを無条件に受け入れて、他の何よりも神との個人的な関係を大切にすること、私たちを招いています。神の神秘の前に身を置いてその声に耳を傾けること。これこそあらゆる祈りの基本となるものです。しかしながら、この愛は、決して隣人への愛から切り離されることはありません。父なる神に倣い、すべての兄弟姉妹、特に最も小さい人、誰からも相手にされない人、最も孤独な人を具体的に愛す



るとき、私たちは日々の生活の中に神の存在を感じられるようになります。キアラ・ルービックは、仏教徒の方々との集いに招かれた時、自身のキリスト者としての体験をこう語りました。「人を愛すれば愛するほど神を見出し、神を愛すれば愛するほど人を愛するようになります。これが私の体験です」<sup>3</sup>と。」

**絶えることなくあなたをたたえ世々限りなく御名を賛美します。**

しかし、神を見出すもう一つの方法があります。ここ数十年、人類はエコロジー問題という大きな課題に対して新たな認識を持つようになったからです。特に若者たちの存在は、より質素なライフスタイル、新しい開発目標と代替エネルギー源の探求など、これらの変革の必要性を人々に提唱する原動力となっています。若者たちは、地球上のすべての人々が、きれいな水、食料、空気を手にする権利があり、それが保障されるように訴えています。こうすることで、人間は自然との関係を修復するだけでなく、すべての被造物に対する神の驚くべき優しさに触れ、真心から神を賛美するようになるでしょう。

ここに紹介するのは、母国ブルンジで、鳥のさえずりで目覚め、森の中を何十キロも歩いて学校に通っていた子供の頃のヴェナン・Mさんの体験です。彼はいつも、自分が緑の木々や動物たち、川や丘、そして学校の仲間たちと一体であると感じていました。まわりの自然を身近に感じ、生き物と創造主がひとつになって、完全な調和を醸し出しているという思いはその瞬間だけではなく、一日を通して絶え間ない神への賛美となりました。

では、都市に住む私たちは？と尋ねる人もいるでしょう。「世の喧騒の中で人の手によってコンクリートで建設された大都市では、自然を壊さないように護るのは至難の業です。しかしそんな中でも、私たちが望みさえすれば、高層ビルの間から垣間見る青空、刑務所の鉄格子の中にさえ差し込んでくる太陽の光、一輪の花、野原、幼子の顔…、こうしたすべてが私たちに神を思い出させてくれるでしょう。」<sup>4</sup>

**絶えることなくあなたをたたえ世々限りなく御名を賛美します。**

アウグスト・パロディ・レイエスと「いのちの言葉」編纂チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. ヨハネ・パウロ二世、2003年7月2日の一般謁見における「詩編 145」の解説より抜粋
3. M. Vandeleene:「キアラ・ルービックにおける私・兄弟・神」チッタノーバ誌 ローマ 1999, p.252
4. キアラ・ルービックとの会話、M. Vandeleene 編纂、チッタノーバ誌、ローマ 2019 p. 340.

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812  
E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com) ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年7月6日

## イタリア発：幼きイエスの聖テレーズと両親の聖遺物ローマへ巡礼



ローマの教皇庁ルシウム（ロシア）大学の主導により、幼きイエスの聖テレーズと聖女の両親である聖ルイズと聖ゼリー・マルタン夫妻の聖遺物が、6月6日から6月16日までローマへ巡礼しました。

6月7日、聖遺物はサンピエトロ広場での教皇フランシスコの一般謁見の場にもたらされました。

教皇フランシスコは、そこで彼の「福音宣教の情熱：信者の使徒的熱意」に関するカテゴリーを「宣教の保護者」である幼きイエスの聖テレーズに奉献されました。

そして教皇は、幼きイエスの聖テレーズはご自分にとって慰めであると確証され、今年発行予定の教皇の使徒的書簡を聖女に奉献する意向を発表されました。

教皇は、宣教の原動力はまさにイエスの慈しみの愛によってもたらされる執り成しの力であり、宣教師は長距離を旅し、その土地の言語を学び、良き働きをし、宣教するだけでなく、彼らがおかれた場所で神の愛の道具として生きることが大切であると強調されました。そして、宣教師とは、証し、祈りと執り成しを通して、イエスがそこを通られるためにあらゆることをする人たちであると述べられました。

6月8日に聖遺物は、ローマのテレジアヌム（教皇庁跣足カルメル会国際霊性神学院）に移されました。そこで午前中はリジューの聖テレーズの聖性に関するセミナーが開催



され。17名の専門家たちが研究成果を分かち合いました。午後6時にミゲル・マルケス・カレ総長司式で荘厳ミサが捧げられ、多くの奉獻生活者、そしてカルメル会の男女修道者と在世会会員が参列しました。

一連の祝賀の終わりに、聖遺物は行列で近くの聖パンクラス大聖堂（中央イタリアの跣足カルメル会の聖堂）に移され、そこで若者による活気あふれた礼拝が徹夜で捧げられました。

6月11日（日）に聖遺物は、午前8時30分からコンソディタリアのアビラの聖テレジア小教区に移され、10時30分にミゲル総長は、聖遺物の前で聖体の荘厳ミサ捧げ司式しました。そして午後から、聖遺物はローマの巡礼を続けました。

詳細は：[\[1\] https://www.vaticannews.va/it/papa/news/2023-06/papa-francesco-udienza-generale-zelo-missioni-santa-teresina.html](https://www.vaticannews.va/it/papa/news/2023-06/papa-francesco-udienza-generale-zelo-missioni-santa-teresina.html) でご覧になれます。

（訳・注：小宮山延子）





## 糸巻き棒からペンへ(89)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

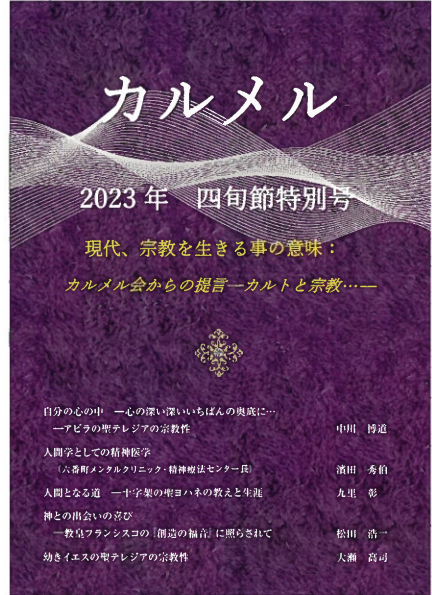
エドゥアルド・サンス OCD

けれども、それ（神の意志との一致）を望んだり、想像したりするだけでは十分ではないということに気づくように。私たちが本当にすべてにおいて神の意志を行おうとしているのかを知るための唯一の道は、私たちの愛が本物であることを示す具体的な行いの中にあります。というのも主は、二つのことだけを私たちに願っておられるからです。その二つをもって私たちは働かなければならないのです。すなわち、神を愛することと隣人を愛することです。この二つの愛を私たちが完全に行なうならば、私たちは神の意志を行っているのであり、まことの祈りによって神と一致しているのです。

愛に関するこの点は、非常に重要であり、小さな事柄において実践していかなければならず、特別な場合のためだけのこととしてはいけないのです。主が望むことは、もし何らかの慰めを与えることができる病人を見たならば、自分の信心行の時間を失うことなど気にせず、その人と苦しみを分かち合うことです。つまり、もし彼女が何か苦しんでいるならば、彼女とともに苦しむことです。また必要であれば、私は彼女が食事するのを手助けをします。これこそ、主のご意志とのまことの一致です。他の人がとてもほめられているのを見たならば、私は自分がほめられる以上に喜びます。

主に対して私たちができる最高の奉仕は、姉妹たちにとって善いことを実行するために自分の休息を忘れて行くことです。けれどもそれには、私たちの自然性が反対するので、簡単でないことは明らかです。そんなことは大したことではないとか、もうなされているなどと考えるはなりません。私たちに対する愛が、主にとってどれほどの犠牲をしいたかを顧みてごらんください。私たちを死から解放するために十字架の上で死ぬほどであったことを。

(P. 九里訳)



**2023年 夏号 No.389**

《共に歩む—パンデミックの世界の中で》  
マリア的シノダリティ— ポーリン・フェルナンデス

カルメルの外のカルメル  
—教会の外から見られたアピラの聖テレジアと  
十字架の聖ヨハネ(2) 鶴岡賀雄

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の霊性(2)  
ウィリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の霊は導く(6)  
—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて  
伊従信子

風に吹かれて再び(4)—現代若者考 原 造

平和への道(2) 九里 彰

霊的研究会講義録(20)—聖書・祈り・愛について  
奥村一郎

**2023年 特集号**

現代、宗教を生きる事の意味：  
カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちばんの奥底に…  
—アピラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰

神との出会いの喜び  
—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて  
松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

**ご案内** 1冊 580円 A5サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

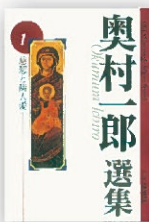
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

# 奥村一郎選集



カトリック教会は、第二バチカン公会議において、世界の諸宗教・諸文化にも開かれた福音の現代的意義を世界に宣揚した。その精神を深く一身に体現した靈性指導者、それが奥村一郎師である。幼子のような無と赤裸の心で神を求めるカルメル会靈性を深めつつ、禪仏教をはじめとする東洋的靈性との対話に生涯を懸け、日本人の心の琴線にふれるキリスト教を語った。分かたれることのない心で、「すべて」である神へ。



**第1巻**  
**慈悲と隣人愛**  
解説：西村恵信  
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読む

み、キリスト教の本質理解に近づく。



**第2巻**  
**多文化に生きる宗教**  
解説：橋本裕明  
宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での

新たな宣教の可能性を示す。



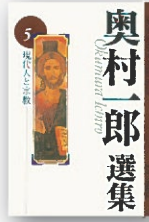
**第3巻**  
**日本の神学を求めて**  
解説：小野寺 功  
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の視点

点である相互愛から問いかける。



**第4巻**  
**日本語とキリスト教**  
解説：阿部仲麻呂  
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、こ

とばと信仰の関係を再考する。



**第5巻**  
**現代人と宗教**  
解説：鶴岡賀雄  
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教は

どう向き合っていけるのか。



**第6巻**  
**永遠のいのち**  
解説：八木誠一  
生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極

め、永遠のいのちへの道を探る。



**第7巻 品切れ**  
**カルメルの靈性**  
解説：高園泰子  
カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通して、その靈性の根源に迫る。

して、その靈性の根源に迫る。



**第8巻**  
**神に向かう〈祈り〉**  
解説：高橋重幸  
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教

の祈りの本質を明らかにする。



**第9巻**  
**奉獻の道**  
解説：宮本久雄  
すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。

人間そのものの神秘を見つめる。

全9巻（第7巻のみ品切れ） 四六判・上製／平均240頁 定価各2,200円（税込）

8冊以上で送料サービスとなります。

オリエンズ宗教研究所 TEL: 03-3322-7601 FAX: 03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンズHP、FAX、ネット書店などへ



# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

### フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

### 九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰  
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。東洋の宗教思想、特に神祕主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ





**第2版  
好評発売中!**

## 福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

## 神と親しく生きる いのりの道

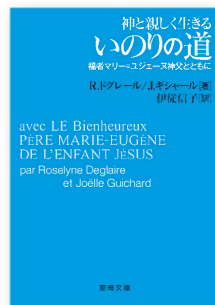
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



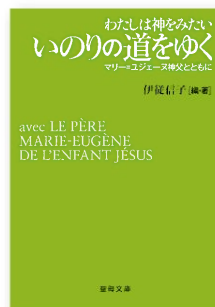
## わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

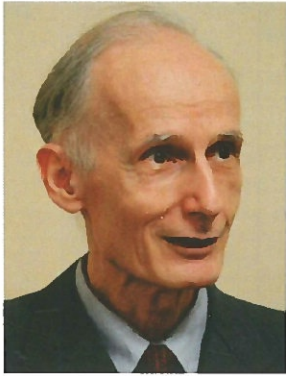
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*  
(2023年4月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

### 【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

~~2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》~~

### 【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

4月29日～30日

11月18日～19日

7月8日～9日

2024年

9月23日～24日

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》

~~2023年 4月19日 5月17日 6月21日 7月19日~~

~~9月20日 10月11日 11月15日 12月20日~~

~~2024年 1月17日 2月21日 3月20日 中止~~

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付) 志村武神父

~~2023年 5月11日 7月6日 9月21日 11月9日~~

~~2024年 1月11日 3月7日 中止~~

- ・一泊黙想会(土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

11月11日～12日

5月20日～21日

2024年

7月1日～2日

1月13日～14日

9月30日～10月1日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2023年8月16日(水)～25日(金)

~~8月1日(火)～10日(木) 中止~~

12月27日(水)～1月5日(金)



- ・青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士  
2023年 ~~5月13日(土)～14日(日)~~  
2024年 3月23日(土)～24日(日)
- ・召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士  
2023年 11月25日(土)～26日(日)
- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)  
カルメル会士  
2023年 4月22日(土)～23日(日)  
7月22日(土)～23日(日)  
10月28日(土)～29日(日)  
2024年 1月27日(土)～28日(日)
- ・特別黙想会 (初日20時夕食なし～最終16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ト・ヴィ)  
2023年 6月16日(金)～18日(日)  
11月3日(金)～5日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



## 宇治カルメル会 黙想会案内

(2023年9月～2024年3月)

**【一般のための黙想】** 中川博道神父  
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)  
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始  
9月2日～3日 11月25日～26日  
2024年  
1月20日～21日

**【聖書深読】** (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父  
**変更** 9月30日→9月2日 12月16日→11月11日  
2024年  
**変更** 2月3日→2月17日

**【水曜黙想会】** (午前10時～午後4時) 中川博道神父  
9月20日 11月8日 12月13日  
2024年  
1月17日 2月14日 3月20日

**【カルメルの霊性】** (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父  
幼き聖テレジア 9月22日～23日  
アビラの聖テレジア 10月13日～14日  
十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

**【祈りの学校】** (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父  
9月14日 10月5日 11月2日 12月7日

**【祈りの学校 入門編】** (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父  
**追加** 9月12日 10月10日 11月28日

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時～午前9時) 一般可  
11/12 (日)～21 (火) 中川博道神父  
12/27 (水)～1/5 (金) 中川博道神父  
2024年  
3/4 (月)～13 (水) 中川博道神父

## 新企画

### 【男性のための黙想会】 中川博道神父

11月22日（水）～23日（木）…22日は夕食を済ませ21時までにおいでください。

## 新企画

### 【青年男女のための黙想会】（35歳以下） 松田浩一神父

1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可）

10月7日（土）～8日（日）

11月4日（土）～5日（日）

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① 2023年10月7日（土）PM5時～10月8日（日）PM5時  
（尚、日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定）



著作：使徒的勧告『キリストは生きている』

② 2023年11月4日（土）PM5時～11月5日（日）PM4時

著作：回勅『兄弟の皆さん』



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起きている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



# 松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

## 「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

~~4月13日~~ ~~6月1日~~ ~~7月6日~~ 終了 9月14日

10月5日 11月2日 12月7日

## 「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

~~5月23日~~ ~~6月27日~~ 終了

追加 9月12日 10月10日 11月28日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## 旧約聖書から学ぶキリスト教霊性 —キリストの十字架の恵みをより味わうために—

日時：2023年9月2日（土）14：30～16：30

テーマ：原初史②（創世記2－3章）

主な内容：他者との出会いと神との出会い、  
救いの場としての塵性と裸性、  
いのちの木の回復としてのイエス・キリスト

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

【以降の予定日】（土曜日14：30－16：30）

2023年10月21日、11月18日、12月16日

2024年1月20日、2月17日、3月16日

---

### 静修の集い（名古屋日比野修道院）

2023年9月30日14：00～17：00

テーマ：リジューの聖テレジア、生誕150周年を記念して

講話担当：今泉健神父

【スケジュール】

14:00～14:20 初めの祈り、14:20～15:20 講話、15:20～16:15 ご聖体顕示、  
念祷、面談、16:15～ミサ

【以降の予定日】2023年12月2日、2024年3月9日

## 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

**テーマ 聖性への招き**

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も  
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）  
予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）  
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）  
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）  
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）  
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）  
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）  
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）  
8月 休み  
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）  
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）  
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）  
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）

・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186





# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.co](mailto:notredamedevie.japan@gmail.co)

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門 A	10/1(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel: 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
浜名湖 サダナ I	10/7(土)9:00- 9(月・祝)16:00 *前泊可	同上	浜松三ヶ日研修 センター (浜松市北区)	同上
フォローアップ	10/22(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル 聖パウロ修道女会九 段修道院	同上
入門 B	10/29(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室	同上
名古屋 リピーターの会 A	11/3(金・祝) 9:30-17:00	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 Tel: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 リピーターの会 B	11/4(土) 9:30-17:00	同上	同上	同上
名古屋 フォローアップ	11/5(日) 9:30-17:00	同上	同上	同上
入門 C	11/19(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。

●入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。



# 祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は記録的な猛暑が続いておりますが、お元気でお過ごしでしょうか。コロナ感染のため、2020年から休止しておりました「祈りの集い」を再開することにいたしました。

集いの前半では、「祈りについての講話」をいたします。

いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』（2017年、サンパウロ社）を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思えます。

後半では、すべての存在（無機物から植物や動物、私たち一人ひとりの人間）を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所：イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

（JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分）

時間：以下の木曜日、13:00～15:00

9月14日（木） 上掲書の「序」

11月9日（木）

主催：慈しみ深き会

指導：<sup>くのり</sup>九里 彰神父（カルメル修道会）

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原（11:00～20:00）



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）



# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。  
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

## インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを  
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

